

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ ⑤ 神の預言の確かさ

→ ③ 古代ヘブル史に反映された神のご計画

イスラエル その1

イスラエル国家

① ユダヤ人にイスラエルの地「エレッツ・イスラエル」の所有権はあるのか？

ユダヤ人には、アブラハムがカナンの地（イスラエルの地）に最初に導かれて以降、その地の所有権がある

☆ユダヤ人、神がアブラハムと契約を結ばれて以降、イスラエルの地に住んできた

☆西暦70年にローマが占領後、イスラエルの地では、異国による支配が続いた

☆1844年までに、ユダヤ人、エルサレム在住の一番大きな単一民族の群れになっていた
1880年までに、ユダヤ人の大多数、集落を形成

☆ユダヤ人大虐殺「ホロコースト」の後、1947年11月29日、
「エレッツ・イスラエルに、ユダヤ人国家設立の認可」が国連総会で採択

☆1948年5月14日、イスラエル国家誕生

☆神がアブラハムと交わされた無条件契約（創世記15章）によって、アブラハムの子孫、ユダヤ人に、地が永久に授けられた

⇒ヘブル語（旧約）聖書の多くの預言とイスラエル史が確証

☆地の所有には神の契約条件（申命記27-29章）が適用され、ユダヤ人はそれを満たさなければならない

☆ユダヤ人が究極的に地を所有する日の訪れの主要な要因は神ご自身のタイミングにある
⇒問われる「神のときはいつか」

② パレスチナのアラブ人が難民になったのは、ユダヤ人国家が設立された1948年以降か
ユダヤ人がパレスチナ人から「占領地」を盗んで国を設立したという中傷に根拠はない

パレスチナ難民問題が生じた本当の理由

☆ユダヤ人国家設立直後、周辺のアラブ諸国、パレスチナのアラブ人住民にイスラエルの復興を中断させる攻撃を思案しているので、パレスチナ（イスラエルの地）から逃げるようにと警告

☆1948年、周辺のアラブ諸国、イスラエルに宣戦布告

神、イスラエルを守られ、アラブ諸国ではなく、イスラエルが奇蹟的に大勝利

→イザヤ書62：6-9、エレミヤ書31：10

☆「西岸地区」と呼ばれている古代イスラエルのユダヤとサマリヤの地、1948年に、不法にヨルダンに併合されたが、1967年の六日戦争での勝利の結果、イスラエルに戻された

☆ユダヤ人、モーセの掟「在留異国人を労わるようにとの神の指示」に従い、アラブ人を処遇
→申命記10：19ほか

造語「パレスチナ」

☆「パレスチナ人」という民族は存在せず、これらの難民は、中東アラブ諸国からのアラブ人諸部族が入り混じった人々の群れ、アラブ人集団

☆「パレスチナ」は、イスラエルの古代の敵ペリシテ人からの派生語

西暦136年にローマ人が「エレッツ・イスラエル」の代わりに命名

「パレスチナ人」という発想、イスラエルをその地から追い出すための政治的な発案

☆ほとんどのパレスチナ人はイスラム教徒

しかし、経典『コラン』には、パレスチナの地への言及は全くない

聖書

③ ユダヤ人の救いと異邦人の救いは異なるのか？

「二重契約の神学」は

救いに二つの道、一律法を通してと憐れみを通して— があることを主張する間違っただ神学

「最初ユダヤ人に、次に異邦人に」

☆使徒パウロ、

①ローマ人への手紙1：16で「福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」（下線付加）と、明確に力強く言明

②ローマ人への手紙11章で、オリーブの木の隠喩を用いて、ユダヤ人も異邦人もキリストを信じる信仰によって統合されることを明示

③エペソ人2章で、「新しいひとりの人」の原則、—キリストを信じる信仰によって異邦人も神の救いの民に加えられた— を解説

☆イスラエルの民の最終的な大収穫を含めた全諸国民の収穫のタイミングは父の御手にあり、救いの道はただ一つ、イエス・キリストによる贖い

④ 第一次世界大戦後、イスラエルは、地図上にどのように描かれたか？

国際連盟、1919年の「ベルサイユ平和条約」に従って、地図の再描画に取り組み、パレスチナが英国の委任統治下に置かれたことを明記

☆イスラム教のオスマントルコ帝国、「エレット・イスラエル」を四百年間、統治

1917年、英国政府、ユダヤ人に国家を設立することを約束した『バルフォア宣言』を發布

☆英国、アレンビー将軍の勲功に対する戦利品として、

第一次世界大戦後、パレスチナを委任統治

多くの聖書の預言が成就 →エゼキエル書36：24ほか

英国の妥協

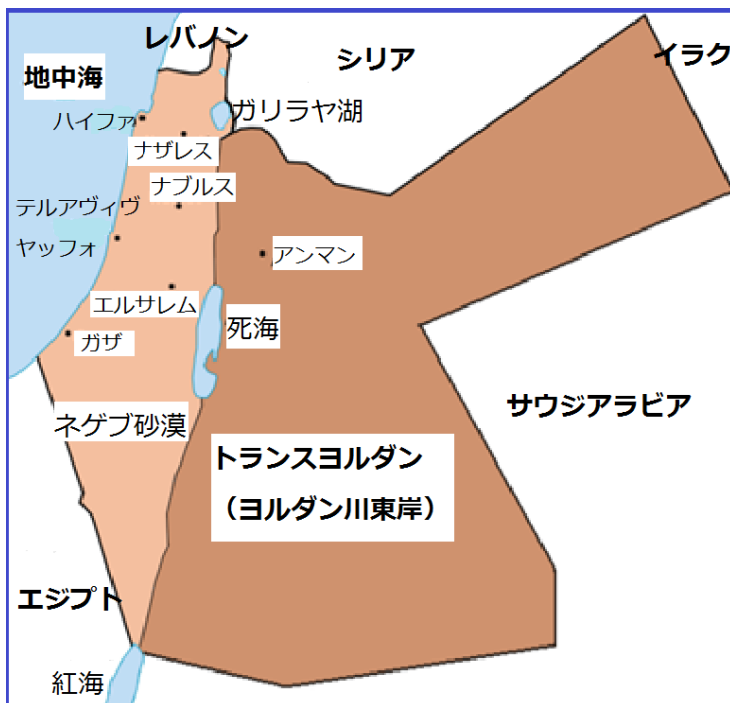
☆英国、アラブ民族の反対に威圧され、脱線

☆当時の植民地長官ウィンストン・チャーチル、ユダヤ人の75%もの大きな領土を減らし、ヨルダン川の東岸をアラブ人に与え、「二国家解決案」を生み出した

☆英国、ユダヤ人が「エレット・イスラエル」に入植することを厳しく制限、民族間騒動に対処

☆1930年以降、ヒトラーの台頭で、ドイツ、ポーランド、チェコスロバキアの多くのユダヤ人、イスラエルに逃避を希望

しかし、英国、イスラエル人の祖国入国を拒否



聖書

5 イスラエルは「反アラブ」、人種差別国か？

イスラエルには、人口の20%、百六十万のアラブ人在住
 イスラエルの少数派アラブ市民には、ユダヤ人市民と同じ権利を授与
 「クネセト（イスラエル国会）」にアラブ人代議士の存在をはじめ、
 政府内や病院内では、アラブ人、ユダヤ人と同等に就労

差別政策をとっているのはだれか

- ☆パレスチナに住み、エルサレムで働くアラブ人には、
 パレスチナ政府が制御している西岸地区から毎日、検問所を通過の通勤許可
- ☆パレスチナ側には、イスラエル人禁止地区が存在
- ☆ガザのハマスの新しい教科書、「地中海からヨルダン川に至るまでの全パレスチナは私たち、
 イスラム教徒のものである」と記載、偏見教育

差別か自衛本能か？

- ☆イスラエルの「壁」建設は安全政策
 自爆テロリストの侵入、防御のため
- ☆イスラエルで差別として受け止められていることの多くは、安全上の自衛策
 西岸地区の例：
 この一帯は、イスラエル国の一部ではない
 移動には、（通行）検問所を通る必要
 イスラエル、この検問を二つの理由で厳重管理
 ①国家間の通常の移動手続き、②安全のため

ゆがめられた話

- ☆イスラエルに関して、誇張や曲解によってひどく現実離れした醜い風刺画が横行
 「世界でただ一国イスラエルだけが、このように、国家の存立権そのものに挑戦を受けて
 いるのはなぜか？」
 ⇨背後に、神の御使いとサタンにつく墮天使との壮絶な「霊の戦い」
 →創世記3：15、ダニエル書10：12-14、黙示録12：7-9

6 1948年のイスラエルの復興は聖書で預言されているか？

イスラエルの究極的復興は、終末末期の出来事として明確に預言されている

紅海を渡るより大きな奇蹟

- ☆預言者エレミヤ、出エジプト時の象徴的奇蹟「紅海横断」以上の奇蹟であろうと預言
 →エレミヤ書23：5-8
- ☆神ご自身、イスラエルの民の大集団での帰還を予告
 →エレミヤ書31：8
- ☆使徒パウロ、ローマのキリスト者に宛てた書簡の中で、ユダヤ人の救いを言明
 「…イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなるときまでであり、こうして、イスラエルはみな救われる…救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り
 払う…それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である…」（ローマ人11：25-27、下線付加）

救い、復興のパタン

- 聖書の教えの多くの重要な個所は、物理（身体）的、霊的の両方に適用する必要がある
- ☆キリスト、ヨハネ3：3-6で、身体の誕生に続いて、霊の誕生が必須であると言われた
 - ☆イスラエルの復興も同じ、最初「地」に戻され、次に「主」に戻される
 - ①エレミヤ書31：8は、イスラエルの本国帰還を告げた直後、イスラエルの家への
 「新しい契約」を告知
 この新約は永久に続く契約、イスラエルの究極的な救いを約束
 →エレミヤ書31：31-34
 - ②エゼキエル書36：24も、神がご自分の民をまず地につれ戻すことを預言、
 二節隔てて、その後、「新しい心」と「新しい霊」が授けられることを預言

聖書

- **2** 神の遠大な人類救済の構想
- **4** 神の約束の確かさ、成就の確かさ

- ☆今日、この世は、ユダヤ人が世界中の至るところから祖国「エレット・イスラエル」に帰還している奇蹟を目撃
まさに諸預言の成就
今日、全世界のユダヤ人の半分、八百万人以上がイスラエルに在住
- ☆この世はまた、メシアニックジュー、一キリストをメシヤとして受け入れたユダヤ人の群れ—が先例を見ない勢いで世界的に増えているのを目撃

7 悔い改めた後の帰還か、帰還した後の悔い改めの、どちらが聖書的か？ 旧約と新約の違いを理解すれば、なぞは解ける

1948年のイスラエル国家復興を正当化するのに、申命記30：1-5の成就が必要か？

- ☆神、イスラエルが捕囚に引かれていく条件を教えられた
また、イスラエルが祖国に戻される条件も教えられた
- ☆シナイ山で与えられた契約のすべてに要求された条件は、**悔い改め、神への立ち返り、復興**
旧約ではこの順は重要
 1. 最初に、神への立ち返り
→ 申命記30：2
 2. 次に、祖国に戻される
→ 申命記30：3
- ☆これらの条件、まだユダヤ人によって満たされていない
⇒今日のイスラエル国家設立は神の行為ではなく、人の手段、政治的もくろみだったのか

新約を予見した預言者たち

- ☆鍵は新約
掟を全うすることによる旧約の成就是、人の弱さのゆえに不可能
憐れみの神、新約を備え、「罪人」の上に下るべき裁きを、キリストの贖いによる勝利に逆転させ、救いへと導いてくださった
- ☆新約の預言、バビロン捕囚時に、ユダにいたエレミヤに示された
→エレミヤ書31：31-37
捕囚先バビロンにいたエゼキエルにも、新約の啓示が示された
→エゼキエル書36：24-28
- ☆神、「はるか先のこと」を啓示された
全地に四散したイスラエルが祖国に復興されるであろう世の終わりの出来事の啓示
新約の助けがなければ成就しないイスラエルの究極的復興の預言

新約の訪れ

- ☆ユダヤ人の全国四散と終末末期の復興の出来事は、
ユダヤ人のメシヤ、イエス・キリストの到来によって初めて成就することになる出来事
⇒十字架上でのキリストの犠牲の死と甦りによって、新約は成就
→ヨハネ14：6、16：7
- ☆終末末期、今日のイスラエルの復興は旧約ではなく、新約に照らして解釈する必要
- ☆このことを確証する聖句は、エゼキエル書36：22-27
神の霊が注がれる前、すなわち、悔い改める前に、祖国に戻されるイスラエルを預言
- ☆最初に民が集められ、次に、新約を通して、神と民との関係が新たにされ、
民は偶像から聖められ、神の掟に従うようになる